

駿河沖レント図

静岡を象徴する景色として、富士山や茶畑、駿河湾を見渡す眺望の中央にレントの社屋と商品を置き、地域共生をめざすレントのイメージを表現いただきました。

さらに、七転び八起きの達磨、祝い船、茶摘み娘が持つ旗の先の祝い鯛、雷神、神を配置し、周年事業への祝賀と今後の発展を祈念する思いを描いていただきました。



アーティスト

大場多知子 - Tachiko Oba -

1977年8月生まれ / 京都市

幼少期より動植物に興味、関心を持ち、絵にすることを好む。

小学校では毎年、絵画展等で入賞。中・高で、いじめを受けるようになり絵画制作から次第に遠のく。

嵯峨野高校卒業。

就職するも高校時代のいじめによるPTSDから、家にひきこもるようになる。一時、大学への進学を目指したが、展望が持てず断念しひきこもりが続く。



2014年頃、通院する病院のカウンセリングで「自分が楽しいと感じることは？」と尋ねられた後、「絵を描く生活をしたい」と考えるようになる。

2017年に、カウンセラーより「天才アートKYOTO ※」の紹介を受け、秋より通い始める。

絵画制作を再開するようになって生活意欲が湧き、ひきこもり状態から脱する。

作品が、地域文化創生本部の長官室に飾られたり、企業等の本社にレンタルされたりするようになり、当初は「生活の潤い」程度に考えていたが、今は生活の中心となる。

絵を描くことは、本来の自分を取り戻し生きる喜びとなり、制作に邁進する日々である。

※ 特定非営利活動法人障害者芸術推進研究機構通称《天才アートKYOTO》

レント 2025

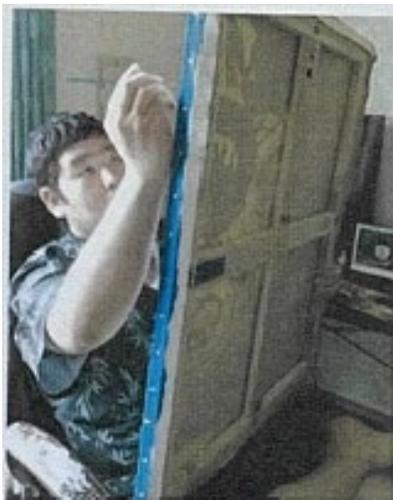
レントの社屋や重機とともに、縁起のいいもの、静岡に関係するものを描いていただきました。
真ん中の大きい鳥は不死鳥、社屋の入り口に金運と人を招くネコ、空を駆ける青龍、一富士二鷹、山の間から顔をのぞかせているのは、富士山をつくたと言われる神さま、ダイダラボッチです。
見て下さる方を、楽しい気持ちにしたい願いを込めて制作いただきました。



アーティスト

平澤 広大 - Koudai Hirasawa -

1997年生まれ / 愛知県岡崎市



幼少期より創作することが大好きで、毎日絵を描いたり段ボールなどで工作を楽しむ。6才の時、広汎性発達障がいと診断を受けるも、彼の気質である才能と努力ではねのける。学生の間は生き辛さを感じて不安定になることもあったが、毎日絵を描くことで心の安定を保っていた。中学で美術部に入り、アクリル絵の具と出会い、独自の感性で色塗りを楽しむ。15才で初めて個展を開催。

彼にとって、毎日絵を描くことは生きていくうえで当たり前のことであり、自然なことである。現在は、リント株式会社でアート雇用されている。

世界中を笑顔にするために。創作をいつまでも続けていく。

〔受賞歴等〕

- | | |
|-------------|------------------------------------|
| 2012年 | 15才で初個展開催（中日新聞掲載） |
| 2014年・2015年 | キラキラっとアートコンクール優秀賞受賞 |
| 2016年・2018年 | あいちアール・ブリュット展優秀賞受賞 |
| 2021年 | 岡崎市美術館博物館「おかざき妖怪の森」にてオリジナル妖怪の作画を担当 |
| 2022年 | 「旅人とねこ展」（神戸市）で作品を展示 |
| 2023年 | 「LOVEEXHIBITION」（NY）で作品を展示 |